

2025年01月28日開催

# 一般社団法人 日本開発工学会 第20回ビジネス・イノベーション研究会のご案内

研究会長（主査） 矢本成恒  
研究会副査 原岡和生

平素より大変お世話になっております。第20回の研究会をご案内いたします。  
2023年のChatGPTの衝撃、それを裏付けるかのように、2024年度のノーベル物理学賞・化学賞はともに人工知能・AIに関連もしくは応用するものでした。技術の流れが加速されていると感じます。  
今回のビジネス・イノベーション研究会は、二つの招待講演を中心に行ないます。ご多忙の毎日とは思いますが、是非ご参加ください。また、今回もOnLine（ZOOM）のみでの開催とさせていただきます。

★ご出席頂ける方は、ZOOM定員把握のため、本研究会事務担当の原岡まで、メールでご一報下さい。  
kazuoharaoka@yahoo.co.jp

## 1. 開催概要

- ・日時：2025年01月28日（火曜日）19時00分から21時00分
- ・場所：ZOOM（パスワード無し） <https://zoom.us/j/2017621486>

## 2. プログラム

### ■開会の挨拶

### ■発表の部：

- (1) 「知の統合による地域イノベーションの創出—コウノトリ農法を事例として—」

19:05~19:55

東京国際工科専門職大学兼任講師 岩田優子

### <略歴>

岩田優子（いわたゆうこ）：博士（学術）。慶應義塾大学卒業後、英国ロンドン大学で「環境と持続可能な開発」修士号を取得。環境コンサルティング会社等で約12年の実務経験を経た後、早稲田大学大学院で地域社会イノベーションに関する研究活動に従事。現在、東京国際工科専門職大学で「持続可能な社会」の講師としてSDGsに関する授業を担当している。

### <概要>

マルチアクター間の協働ガバナンス（collaborative governance）を機能させる条件として、多様なレベルの多様なアクターの有する知識を統合させる（knowledge integration）必要性が指摘されてきた。一方、先行研究における知の統合は、専門知と地域知という二項対立的な議論に終始している点にひとつの限界がある。本研究では、この限界を踏まえ、兵庫県豊岡市の「コウノトリ育む農法」の開発過程を事例に、ハイブリッド知（実践知）の体系化について考察する。

<（転換）5分>

## (2) 中小企業におけるネットワークインテグレーションとデジタル競争力

20 : 00~21 : 00

株式会社ウェバートン代表取締役社長 渡邊光五

### <略歴>

渡邊光五 (わたなべこういつ) : 株式会社ウェバートン代表取締役社長。1995年からアルバイトでITインフラ業界 (LAN 工事会社) に入社。1997年、創業メンバーとして株式会社ウェバートンを立ち上げる。「地に足のついた楽道家であれ」をモットーに業種・業界にこだわることなく貪欲に現場を駆けずり回り、事業領域をファンリティからネットワークインテグレーターまで拡大。現在はIoTインテグレーション事業も手掛ける。企業理念は「ICT現場力で一期一会を繋げる」。大阪市立大学文学部史学科西洋史コース卒業。英国国立ウェールズ大学経営学修士課程 (MBA) 修了。東海青年連絡会、事務局長 (現)。IoTビジネス推進コンソーシアム沖縄、理事 (現)。社長チップス社主催、「MY CEO AWARD 2024」ファイナリスト7に選出。

### <概要>

日本のIT業界における複雑なゼネコン構造がプロジェクトの進行を阻害し、コストを増大させる一因となっています。その結果、デジタル改革に苦しんでいる中小企業は多く、現場の情報システム担当が直面する課題は多岐に渡ります。ネットワークインテグレーターは、この多層的な構造を見直し、シンプルで効果的なプロジェクト推進を可能にすることが求められています。コスト削減とスピード感のあるイノベーション実現を可能にするためのネットワークインテグレーションの重要性を、実案件のIoTインテグレーション事例を交えて発表します。また、中小企業こそDX推進における付加価値の生成が容易であり、企業規模や業種を超えた連携を通じて生み出すデジタル競争力の可能性を考察します。各企業がどのようにデジタル変革を進めるべきか、異なる要素をまとめ社会的な価値を最大化するネットワークインテグレーターの役割の道筋を提案し、参加者との議論を通じて今後の展望を探ります。

### ■開会の挨拶

以上